



『石鎚山ハイウェイオアシス館改修事業基本設計（案）』

愛媛県西条市

現状の問題点

環境改善の方向性

① 施設経年劣化への対策



- 天井照明(ダウン・スポットライト)
- 共用部(床・壁・天井)
- 各種、機械と防災関連設備



- 照明器具のLED化等の省エネルギー対策
- グレード感のあるエコマテリアルで化粧直し
- リニューアルに伴う改修(機器の新設等)

② 施設への誘引強化



- 館、エントランス導入部の設えが弱い
- 壁やパネルで店舗が閉ざされている
- 情報パネルやサインの種類が煩雑で動線が分かりにくい



- 館の「顔」として魅了できるファサードデザイン
- ガラス窓面を活かした開放的なお店づくり
- 施設名、店名、カテゴリー、定点、案内誘導サイン機能の役割、位置づけを明解にする。

③ 展示・集客機能の再構築



- 展示内容や手法が魅力的ではない
- コーナー毎に壁で仕切られており見通しが利かない。(デッドスペースが多い)
- 建築と展示空間の整合が取れていない(窓面の有効活用等)



- 展示機能のブラッシュアップを図り、物販やカフェスペースを設け、いつ訪れても新鮮で楽しめる仕掛けやアイデア、コンテンツを導入する。
- また、建築と相乗効果を図る空間を演出する。

④ アメニティの改善

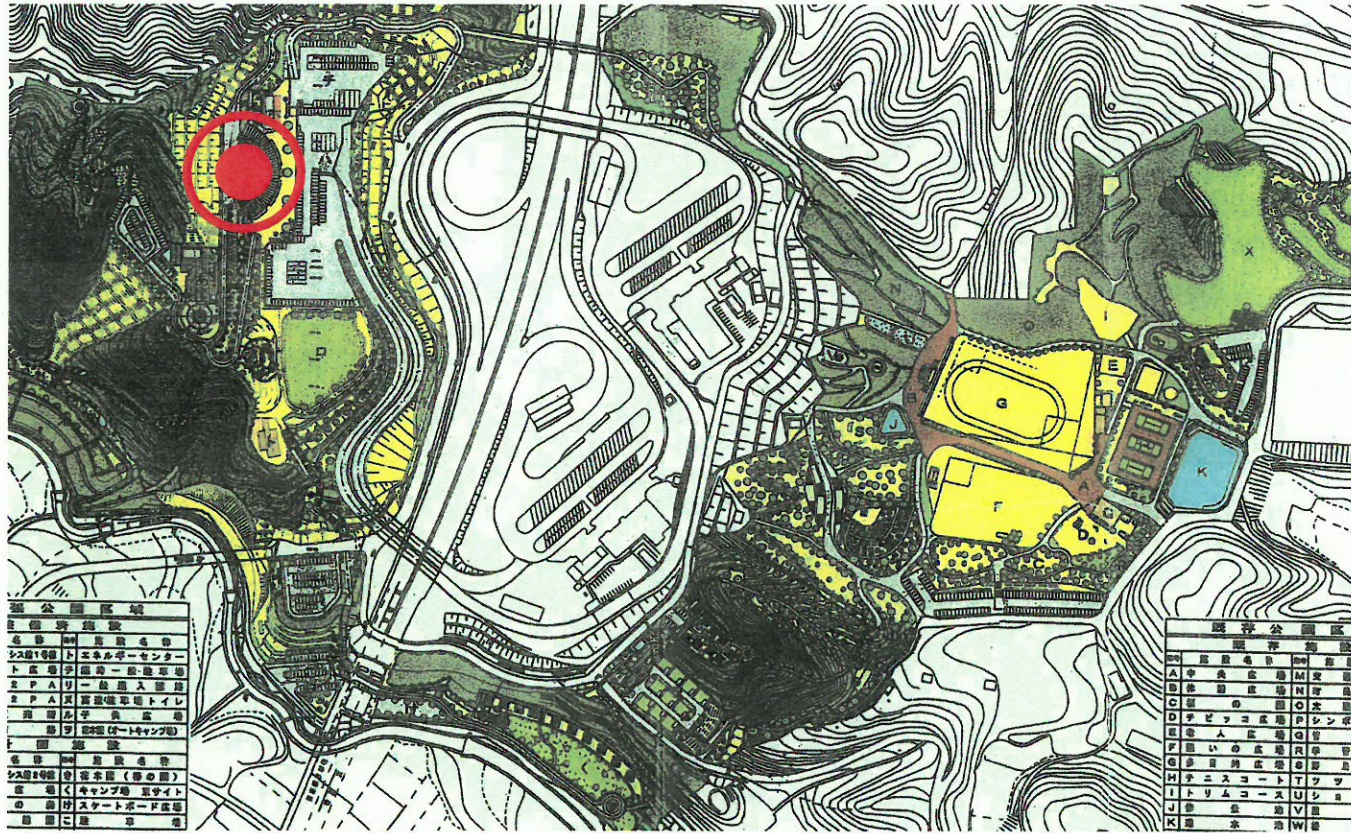


- 休憩場所におもてなし感が無い
- 女性用のパウダールームが無い
- トイレ機能が古くグレード感が低い



- 目的にあったレストスペースとして再整備
- 女性トイレ付近にパウダールームを計画
- バリアフリーに対応しユニバーサルデザイン化

石鎚山ハイウェイオアシス館は生まれ変わります!!



はじめに

新生!石鎚山ハイウェイオアシス館は小松中央公園を含む施設全体のPortal site[玄関口]となり、運営も含めた施設全体を魅力ある「場」を創造する「扇の要」となる。市民をはじめ、高速道路利用者の集客装置として新たな「モノ」と「コト」を生み出す多機能な施設へと進化させる。

施設の位置づけと役割

- I. 公園内の森や敷地を使った「野遊び」や観光情報発信拠点として整備
- II. ここで来館者の興味を喚起し、フィールドへといざなう。
- III. 「南海トラフ地震」等の災害時に備えた防災拠点として機能を想定

企画の三本柱

玄関口
クリエイティブな
観光情報の発信拠点

三世代交流
市民に活用され
愛され続ける交流施設

休憩施設
道のオアシスとして
くつろげる施設

デザインコンセプト「野遊び(アウトドア)」



石鎚山の自然や素晴らしさを内外に伝える発信拠点として、また世代を超えた市民交流の場として活用するため、施設のテーマを「野遊び(アウトドア)」といたしました。

このテーマは、周辺のサテライト施設と連携を図ると共に、この施設が防災拠点に選定されていることも踏まえ、市民の皆様へアウトドアへの関心を持っていただくことで、被災時に役立つスキルを身につけていただきたい。ワクワクするような楽しい施設でありながら、市民の防災意識を高める、意義のある施設であることを目指しています。

小松中央公園エリア

ハイウェイオアシス館

Lecture SPACE
情報発信拠点として整備

Exhibition SPACE
既存の展示室を深化

Media mix SPACE
クリエイティブなCampコミュニティー

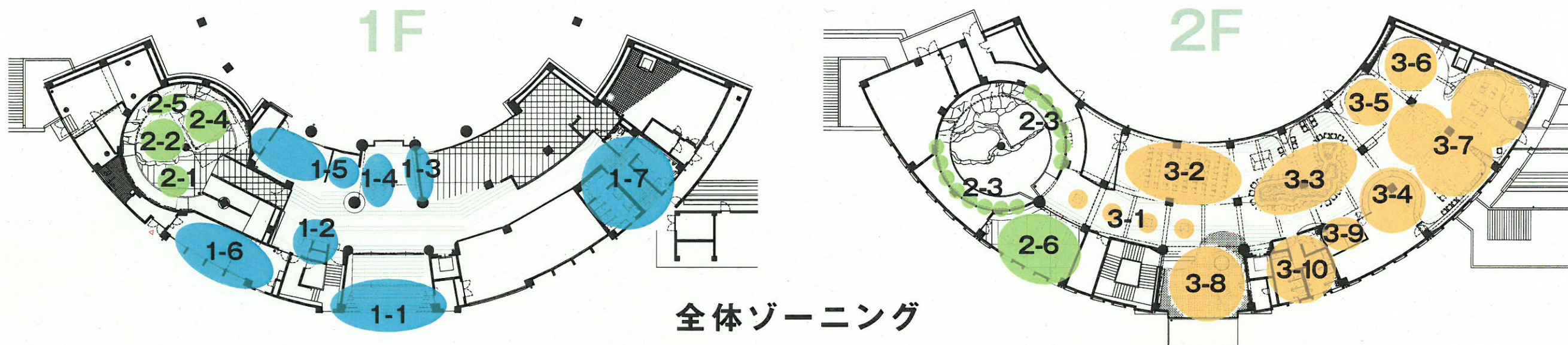
Satellite SPACE

森&広場

椿温泉

プレイエリア

おあしす市場



全体ゾーニング

施設・展示構成

Lecture SPACE	Exhibition SPACE	Media mix SPACE	
1-1 ウェルカムファサード 来館者をお出迎えするNEWロゴサインやテントタープ風な装飾を付加。	2-1 ふれあいカウンター 動物の角や化石等の標本等を手に取って鑑賞できるハンズ・オンコーナーを設置。	3-1 ギャラリーアイル 企画・特別展示と連動したアイランド型、展示台とピクチャーレールを設置。	3-8 ワークショップエリア 木育をはじめ様々なワークショップに対応した収納什器を設ける。
1-2 インフォメーション 温かみのある木目調のインフォメーションカウンターを設え、導線に沿った適正配置。	2-2 石鎚山体感ジオラマ 既存の石鎚山ジオラマに照明演出を加え臨場感を高める。	3-2 多目的スペース VP用スクリーンと50席程度のスペースを確保。レンタルスペースとしても活用可能。	3-9 パウダールーム 授乳室や化粧ブースを備えた女性に優しい新機能。
1-3 情報ライブラリー 大型モニターを導入し、観光・自然情報を提供。サブモニターでは、石鎚山ライブ映像を配信。	2-3 ウォールグラフィックス 円形の壁面に石鎚山の生き物の姿を動きのあるグラフィックデザインで表現する。	3-3 石鎚山テーブル テーブル中央に石鎚山のジオラマ模型を配し、Campカフェのシンボル什器として機能。	3-10 2Fトイレ 床仕上を湿式からドライ仕様に改良しバリアフリーに対応したトイレブースを新設。
1-4 レストスペース おもてなし感のあるテーブルやチェアで寛ぎの場を提供。	2-4 雲海ステージ ハングライダー体験コーナーを改修し、床面に人が乗れる強化ガラスステージを設置。	3-4 Campカフェカウンター 軽飲食を提供できる厨房区画とセルフサービスカウンターを設置。	関連諸計画 防災拠点としての活用
1-5 ミュージアムショップ キャンプグッズや生き物のぬいぐるみを展示・販売できる2区画を形成。	2-5 霊峰石鎚山の紹介 修験道の歴史や石鎚山の自然をテーマにスマートフォンに連動したBconグラフィックで紹介する。	3-5 グッズショップ 汎用性のある壁面BOXやアイランド型什器やテーブル、陳列台を設置。	
1-6 事務室 インフォメーションカウンターの位置・意匠変更に伴い、木目調の壁面・扉をデザイン。	2-6 企画・特別展示室 ピクチャーレールやステージ、展示ケースを設え、イースターカーテンで区画整理。	3-6 ボルダリングコーナー 子供たちがボルダリングを体験できる、安全に考慮したプレイエリア。	
1-7 1Fトイレ 床仕上を湿式からドライ仕様に改良しバリアフリーに対応したトイレブースを新設。		3-7 Campサイト テントサイトをイメージした疑似体験エリア。Campグッズを活用してアウトドアシーンを演出。	

